

ITA コーパス 原稿

朗読音声 324 文

1. おんな こ 女の子がキッキッ うれ 嬉しそう。
2. ツアツォに旅行した。
3. みんなしゅう 民衆 がテュルリー きゅうでん しんにゆう 宮殿 に 侵入 した。
4. ハイチ きょうわこく 共和国でトゥーサンルーヴェルテュールがしょうり おさ 勝利を収められたのは、じっさい 実際
おうねつびょう 黄熱病のおかげだった。
5. レジャンドルは みんなしゅう 民衆 をテュルリー きゅうでん まね 宮殿 に招いた。
6. じょげん 助言 はできないとデュパンは い 言った。
7. フランス じん 人シェフとにほんじん 日本人シェフは ぜんぜん ぜんちが 違う。
8. ちゅうごく がいこうだん 中国の外交団にアタッシェとして はけん 派遣された。
9. ファシズム せいりよく 勢力 との そうりよくせん のぞ 総力戦 に臨む。
10. かぐ しょうにん 家具 商人 のフィシェルは、にぐるま こうま か 荷車と仔馬を貸してくれた。
11. ローカル ろせん 路線にはファンも おお 多い。
12. フェイントで 相手に あいて かわしてからシュートでフィニッシュした。
13. せんはっぴやくななじゅうな 1877 、プフェファーにより しんとうげんしょう はっけん 浸透現象 が発見された。
14. ゆ 揺れるフェリーの の 乗るのは わたし 私 にとって くぎょう 苦行です。
15. ホルロ・アラ・ティタルッフォという とくべつ りょうり で 特別なお料理も出ました。

16. 笛ふえの音おとがなるとウサギのキッドが早速さっそくぴょんはと跳ねた。
17. あの旅客りょきやくは噂うわさのキャフェいに行くようです。
18. 目標もくひょうは一等賞いっとうしょうです。
19. ウサギのキッドは気分きぶんよくピョン、またピョンと飛び続とつづけた。
20. アフタヌーンティーをたの楽しみましょう。
21. 彼女かのじょはティピカルなフェミニストです。
22. 助手じょしゅたちとミツツィは探さがしている書類しょるいを見つけれみなかった。
23. フィレンツェ、パドヴァ、ヴェネツィアはどれもイタリアの都市としです。
24. 楽譜がくふに次つぎのように書かいてあるのが、エーフェリチェです。
25. ショペンハウエルとニーチェの哲学書てつがくしょを本棚ほんだなから取り出とした。
26. 早速さっそく召使めしつかい全員ぜんいんに知らせしましょう。
27. 重いおも綿入わたいれを脱ぬいで、あわせに着替きがえる。
28. ボストンで、とあるチョプスイ屋やへ入はいって夕飯ゆうはんを食くった。
29. ろくすっぽ休憩きゅうけいをとらずはたら働いた。
30. かつて一人ひとりで国府こくふに侵入しんにゆうした。
31. だが、今日きょうお前まえがここへ御入来ごじゆらいになったのは、どんなご用ようなのかな？
32. サブフランチャイザーを増ふやして目指めざせ百ひゃく店舗てんぽ。
33. 四国しこくでお遍路へんろを行脚あんぎゃしよう。

34. いつもの通りギャンギャン泣き出しました。
35. 先生は、立ったままニュースを見ていました。
36. 私はギョッと目を見開いた。
37. 友達へニューイヤーカーカードを送ろう。
38. 家政婦は休みにおしゃれなアウターウェアに身を包み一人で屋台を楽しみました。
39. ウォッカのお供には塩漬のきゅうりがあいます。
40. 山の向こうのミュンヘンの人たちが攻撃をしかけた。
41. ボスニア 国境 からの 攻撃 により、十一月 にヴァリエヴォが 占領 された。
42. シルヴィウスはデュボアと呼ばれていたフランスのユグノーの家で生まれた。
43. そのほかに 私 に来ることはなかったのです、百合枝は 涙声 になった。
44. ガル博士 百体 近く。
45. 日本政府からの 百兆円 を超える予算 要求 。
46. 写経 の 美 しさに 私 は 仰天 してしまった。
47. ソプラノ歌手ポリランダチヨは歌劇アイダの 特別 名歌手と 評判 です。
48. 貴方には最初 百 ポンド渡します。
49. 社長 からの指示です。
50. どうも気まぐれというのは多少メフィスティックなものであるらしい。
51. 蛙 がピョコピョコ飛び回っています。

52. 魔境^{まきょう}に足^{あし}を踏み入^ふれる。
53. ヴァンダーヴォットタイム^{ちゅう}中^{ちゅう}は、いわゆるパーティーのよう^はで晴れやかです。
54. スピリッツとは^{じょうりゅうしゅ}蒸留酒^{こと}の事です。
55. ヌルシアのベネディクトゥスはアポロン^{しんでん}神殿^{こわ}を壊し、ベネディクト会^{かい}の修道院^{しゅうどういん}を建て^たた。
56. ちょうどそのとき、デストゥパーゴがコップをも^たって立ちあがりました。
57. パフィーのグッズが^{のこ}残らず^{へや}部屋^おに落^つち着いた。
58. エピファアーノフは^{さいふ}財布^なを無くした。
59. ポピュラーなソフトを^{つか}使い^{じょうたい}セキュアな^{ふっきゅう}状態^をを復旧^{する}する。
60. チョコの^{ざいこ}在庫^{あったかな？}あったかな？
61. おめえ、この^{しこ}仕込^{じかん}みにゃあ、どのくれえ時間^しかかるか知^{って}てっか。
62. それに、この^{からだ}ほうが^体体^{のために}のためにや^{ずっと}ずっといいんだからね。
63. ^{なつやす}夏休^{りょこう}みに、トラアヴェミュンへ^{旅行}旅行^{した。}した。
64. ^{いっしょ}ここで^{おば}一緒^まにウェイクフィールドの^{叔母}叔母^をを待^{った。}った。
65. ^{やっ}八つになるウォルターと^{いっしょ}一緒^でに出^{きょうだい}た^{兄弟}兄弟^ががいたが、ウォルターだけ^{はっけん}発見^{された。}された。
66. ^{さいしょ}最初^{おも}のジョブはウォーリアが^{いい}いいと^{おも}思います。
67. およそ^{ろっぴゃく}六百^{さき}メートル^{うせつ}先^をを右折^{です。}です。
68. ^{しんでん}新店^{たくさん}オープン^{さやく}のレセプションに^{しょうたい}沢山^をのお客^{さん}さんを招待^{した。}した。

69. 脚本 作者 ピエール・オービュルナンの 給仕 クレマンが、主人の 書斎の 戸を 大切 そう
ひら
に開いた。
70. われわれは、天主 教徒 か 長老 教会 派のもので、天主 教徒 が多数を占めている。
71. 結局 のところお 互い 五十歩百歩だ。
72. 突拍子 もない 話 だが、決して嘘ではない。
73. ネットで 懸案 の 解決 を目指す。
74. 切れ味 鋭 いペティナイフは使い 勝手 が良い。
75. 指 をくわえてぴゅーと 一声 口笛 を吹いた。
76. クレンペ 教頭 は無骨な 男 だが、自分の 学問 の秘密には深く 浸 っていた。
77. 尻尾 ぶりたて、ひげ くいそらす。
78. すべての 獲物 を 望みどおりに 狙 う 技術 がある。
79. タコのグニャグニャした 感触 が嫌だ。
80. 私 たちは、 抽象的 意識的 自己 を否定することで、 本当 の 自己 とは 身心一如 だとい
し
うことを知る。
81. 鹿島 明神 が釘で 刺し 貫 いて、 魚 が動かないようにしている。
82. 私は手始めに、 同業者 から 話 を聞く 努力 をした。
83. とてもうれしそうにぴょんぴょん 跳ねて 出 ていった。
84. 二分だけのオルガン 演奏 で終わってしまった。

85. ニセ^{きょうかい} 教会^{だま} に騙されるな。
86. およそ^{ひゃくねんまえ} 百年^{やくざい} 前^{くすりや} には、薬^う 剤^う として薬屋^う で売っていた。
87. いっそ^{きやくほんか} 脚本^{めさ} 家^{ほう} を目指した方^{かんが} がいいかとも考^{かんが} えた。
88. この書物^{しょもつ} に誤謬^{ごびゅう} があっても、純一^{じゅんいつ} でない何^{なに} もものにもインフェクトしないでしょう。
89. 仏教^{ぶつぎょう} はインド^{ゆらい} 由来^{しゅうきょう} の宗教^{しゅうきょう} です。
90. キャリーバッグは^{りょこう} 旅行^{ひつす} に必須^{ひつす} 。
91. 本番前^{ほんばんまえ} はメチャメチャ^{ふあん} 不安^{ふあん} になる。
92. 三角関数^{さんかくかんすう} においてピュタゴラス^{ていり} の定理^{ひつす} は必須^{ひつす} です。
93. 著名^{ちよめい} なラニョン^{はかせ} 博士^{かんじゃ} が患者^{せつ} と接^{せつ} していた。
94. おもちゃの^{かたな} 刀^も を持った^{しょうねん} 少年^{しょうねん} が、お百度^{ひゃくどいし} 石^よ に寄りかかっている。
95. 食料^{しょくりょう} の補給^{ほきゅう} が急務^{きゅうむ} であると伝^{つた} えられた。
96. 展示会^{てんじかい} であの作品^{さくひん} のみ^{ふひょう} 不評^{ふひょう} だった。
97. 客人^{きやくじん} をもてなすのは^{とうぜん} 当然^{とうぜん} です。
98. 旅行客^{りょこうきやく} が^{たの} 楽しめるように^{くふう} 工夫^{くふう} しましょう。
99. こんな^{じょうだん} 冗談^{じょうだん} のようなニュースはない。
100. 小さい^{ちい} 星^{ほし} をたくさん^{えが} 描^{みずの} いた、水^{みずの} 飲み^{みずの} グラスはよくある。
101. 柄^え は、猫^{ねこ} の尻尾^{しっぽ} でもあるように、尖端^{せんたん} をぶるぶると^{ふる} 震^{ふる} わせながら、動^{うご} いていく。
102. 開店^{かいてん} 当初^{とうしよ} プリンが^{いちばん} 一番^う 売^う れていた。

103. ロナルドホープ大尉^{たいい たいしょう}が 大将^{きゆうこう} のマンションへ 急行^{きゆうこう} しました。
104. 日刊^{にっかん} センティナル紙^しのヘプバンです。
105. この 宝石^{ほうせき} は、ひとつ 百万円以上^{ひゃくまんえんいじょう} のお値段^{ねだん}です。
106. チョウチョコと仲良^{なかよ}くなるんだから。
107. 宇宙^{うちゅう} では、エントロピーは無際限^{むさいげん}に増大^{ぞうだい} している。
108. 川^{かわ}の 中流^{ちゅうりゅう} に 集落^{しゅうらく} がある。
109. 是非^{ぜひ}お 話^{はなし} させて 頂^{ただ} きたいと 思^{おも}います。
110. お 隣^{となり} さんが 蒟蒻^{こんにやく} を持^もっていらっしゃる。
111. パーティーは楽^{たの}しむものです。
112. おてつと大^{おお}きく書^かかれた 番茶^{ばんちゃ} 茶碗^{ちやわん} は、これら^{ひとびと}の人々^{まえ}の 前^おに置^おかれた。
113. 私^{わたし} のポケットの中^{なか}には 携^け帯^{たい} 電話^{でんわ}が入^{はい}っています。
114. 彼^{かれ}は今度^{こんど}は 牧場^{ぼくじょう} へ行^いって、沼地^{ぬまち}で小悪魔^{こあくま}の尻尾^{しっぽ}一つ見^みつけました。
115. 五行説^{ごぎょうせつ} による 占^{うらな} いがあるという 情報^{じょうほう} あり。
116. テンプル君^{くん}、既^{すで}に 真逆^{まぎやく} だと言^いった。
117. 世界^{せかい} 中^{じゅう} の様々^{さまざま} なモニュメントを 訪^{たず}ね 歩^{ある}いた。
118. アンソニー・ホプキンスは 有^{ゆう}名^{めい} な俳優^{はいゆう} です。
119. 彼女^{かのじょ} は出来^{でき}るだけぴったりと 耳^{みみ}をあてて聴^ききました。
120. 茶^{ちゃ}一つ 参^{まい}らぬか、まあいいで。

121. ボヤですんでよかった。

122. モンタギュ・ゴーシ^{きょう} 卿^き がマンチェスターに来た。

123. ウィスキーの水割^{みずわ}りをガッツリ^の飲んだ。

124. これやお祭^{まつ}りを若いもの^{わか}に見せる^みにや持^もってこいだ。

125. 私^{わたし} はイメージカラーをピンクに決^きめた。

126. ムニャムニャ、もう食^たべれません。

127. 満洲^{まんしゅう} は雨季以外には雨^{うき いがい}が少^{あめ}ないと言^{すく}われているが、わたしが 満洲^{まんしゅう} にあるあいだは、

大戦中^{たいせんちゅう} のせいか、ずいぶん雨^{あめ}が多^{おお}かった。

128. 均一^{きんいつ} 居酒屋^{いざかや}では一^{いちばん}番^う 売^{ふたり}れても二^{はっせんえん}人で 八千円^{はっせんえん} くらいだ。

129. 願^{ねが}いをかなえる。

130. 最初^{さいしよつら} 辛^{はな}かったけど、花^{えんげい}や園芸^す が好き^{しつ}だったから、失^い意^{しつ}が癒^いやされないこともない。

131. ペピス爺^{じい}さんはもう寝^ねるらしい。

132. 直^すぐウィルキンソンを呼^よびに行^いけ。

133. お 昼前^{ひるまえ} ジャスパーさん宅^{たく}へ 再^{ふた}びお邪魔^{じゃま}しました。

134. その 竜^{りゅう} の 百^{ひゃく} の 頭^{あたま} が恐^{おそ}ろしい。

135. 必要^{ひつよう} なミョウバンの 量^{りょう} はプ^かリントに書^かいてあります。

136. マリー・ロジェはパヴェサ^{いえ}ンタンの家^でを出た。

137. 読^よみ進^{すす}むにつれ、ますます興^{きょう}味^みが湧^わいた。

138. 笑^{わら}いかけながら一^{いち}二^に歩^ほ近^{ちか}寄^よった。

139. 地^ち表^{ひょう}を緑^{りょく}化^かして、温^{おん}暖^{だん}化^かを抑^{よく}止^しする能^の力^{りょく}を強^{つよ}くする。

140. ハサミでブツツと切^きった切^きれ端^{はし}をペッ^はットにあげた。

141. ホームランを打^うつ。

142. プレゼントをギャロウェイさん^{わた}に渡^{わた}してください。

143. ケプラーの法^{ほう}則^{そく}について直^{ちよく}接^{せつ}私^{わたし}に聞^きいてきた。

144. ウェンディーズはハンバーガー屋^やさんです。

145. しかし氷^{ひょう}河^がはアルプスだけにあるものではない。

146. この先^{さき}百^{ひゃく}年^{ねん}も抹^ま茶^{ちゃ}は衰^{すい}退^{たい}しない。

147. 自^じ分^{ぶん}を評^{ひょう}価^かするの^のは会^{かい}社^{しゃ}であって、行^いき過^すぎた自^じ己^こ表^{ひょう}現^{げん}は失^し脚^{きゃく}につながる。

148. 夜^{よる}に吹^ふく風^{かぜ}のヒュウヒュウという音^{おと}が私^{わたし}を不^ふ安^{あん}にさせる。

149. 可^{かわ}愛^{あい}な華^{きゃ}奢^{しゃ}な女^{おんな}のこ^こ。

150. 水^{すい}中^{ちゆう}の金^{きん}魚^{ぎょ}をすくうためのポイ。

151. グレンエルギンはウイスキーの蒸^{じょう}留^{りゅう}所^{じょ}です。

152. 一^{いっ}寸^{すん}法^{ぼう}師^しが、ヒョコヒョコと彼^{かれ}の方^{ほう}へ近^{ちか}づいた。

153. 連^{れん}中^{ちゆう}はリビングでぺちゃくちゃ喋^{しゃべ}って、警^{けい}戒^{かい}していない。

154. 平^{へい}一^{いち}郎^{ろう}はシャツ一枚^{いちまい}になっ^て絹^{きぬ}物^{もの}の布^ふ団^{とん}の中^{なか}へ潜^{もぐ}りこんだ。

155. 下^{しも}京^{ぎょう}区^くに引^ひっ越^こす。

156. 彼^{かれ}の言葉^{ことば}に一種^{いっしゅ}不思議^{ふしぎ}な感覚^{かんかく}を覚^{おぼ}えた。

157. この事業所^{じぎょうしょ}には百人^{ひゃくにん}以上^{いじょう}の人が勤^{ひと}めています。

158. わたしの家^{いえ}ばかりでなく、近所^{きんじょ}の住居^{じゅうきょ}といわず、商店^{しょうてん}といわず、バラックの家々^{いえいえ}ではみな草花^{くさばな}を植^うえている。

159. どうせ私^{わたし}は馬^{うま}の世話^{せわ}をせにやならんから、外^{そと}へ行^いこう。

160. ヤン・セチャンというお笑い芸人^{わら げいにん}。

161. 男^{おとこ}が妙^{みょう}な顔^{かお}をして、一瞬^{いっしゆん}残忍^{ざんにん}になった。

162. 普及^{ふきゅう}活動^{かつどう}に幻滅^{げんめつ}した。

163. 雨^{あめ}がぼつぼつ降^ふりだした。

164. ペリウィンクルやプランティンはブルーアイです。

165. 姫^{ひめ}や侍女^{じじょ}たちが、キンポウゲやタンポポの花^{はな}を持^もって、彼^{かれ}の方^{ほう}へ駆^かけ寄^よっていった。

166. 皆^{みんな}の協力^{きょうりょく}のおかげで帰郷^{ききやう}できた。

167. ウォルターとワードが入室^{にゅうしつ}すると、ノラが真^まっ赤^かになった。

168. 今^{いま}の持ち札^{も ふだ}ではあがれず^おに終わ^おる。

169. 勉強中^{べんきやうちゅう}は話^{はな}しかけないで。

170. レパードの花壇^{かだん}が枯^かれ果^はてた。

171. 蒸留酒^{じょうりゅうしゅ}にミョウバン^{くわ}を加^{くわ}える。

172. 取^とっつきにくい女中^{じょちゅう}が三人^{さんにん}いる。

173. レインボーブリッジは ^{とうきょう}東京 ^{めいしょ}の名所。

174. ^{ひきょうもの}卑怯者 ^{あくとう}は悪党です。

175. ^{とつぜんうみ}突然 ^と海へ ^こ飛び込んだ。

176. ^{しごと}仕事はどっさりとあります。

177. ^{はまき}葉巻パイプはありましたか。

178. ^{やおや}八百屋に行って ^い ^{ひゃくえん}百円 ^{だいこん}で大根 ^かを買った。

179. ^{はん}般若 ^{にや}とは ^{きじょ}鬼女 ^{のうめん}の能面 ^{こと}の事です。

180. ^{にほん}日本へ行くには ^い ^{ふね}船か ^{ひこうき}飛行機 ^{ひつよう}が必要です。

181. しかしパーで ^{まわ}回るのも ^{むずか}難しい。

182. のぼせないように ^{にゅうよく}入浴 ^{する}するには ^ゆお湯の ^{りょう}量 ^{おんど}と ^{だいじ}温度が大事。

183. ^{きたろう}鬼太郎くんは ^{じょうだんはんぶん}冗談 ^{ぬす}半分で ^{はい}盗み ^{けが}に入って怪我をした。

184. パーニ ^{いし}医師 ^{こた}がピシッと答えた。

185. ^{おとこ}男 ^{みょう}の ^{うご}妙な動き ^{あや}が怪しい。

186. ^{わたし}私の ^{びょうき}病気 ^{せんてんせい}は先天性 ^{なの}なのです。

187. ^{さんごくし}三国志 ^{かんう}の関羽 ^{しょうぐん}という ^{ゆうめい}将軍 ^はは ^{ごく}すごく ^{有名}有名 ^{です}です。

188. ^{かこく}過酷な ^{ぎょうむ}業務 ^たに耐える。

189. ^{まち}町の ^{にようぼう}女房 ^{ふたり}らしい二人連れ ^づが、 ^{ひがさ}日傘 ^もを持って ^{はい}入ってきた。

190. ^な名を ^なツァウオツキイ ^とと ^いいった。

191. 飲^のみ^{かい}会^{さんか}の参加^{きよひ}を拒否した。

192. 夫人^{ふじん}が仰^{ぎやうてん}天^{むり}したのも無理はない。

193. セファドールはめまいを抑^{おさ}える^{くすり}薬^{くすり}です。

194. 明^{みん}の一^{いち}訓^{くん}詁^こ学者^{がくしゃ}は、宋^{そう}代^{だいてん}典^{せき}籍^{ひと}の一^{ひと}つにあげてある茶^{ちゃ}せん^{けいじやう}の形^{おも}状^おを思^{おも}い起^おこす^{くる}に苦し

んでいる。

195. 深^{しん}海^{かい}魚^{ぎよ}は見た^み目は悪^めいがおい^{わる}しい^{おお}こと^{おお}が多い。

196. ニューヨークでイヴニングポスの記^き事^じに注^{ちゆう}目^{もく}した。

197. 確^{たし}かに牛^ぎ乳^{ゅう}とコーンフレークの相^{あい}性^{しやう}は抜^{ばつ}群^{ぐん}だ。

198. その一^{いち}は、明^{めい}治^じ三^{さん}十^{じゅう}七^{なな}年^{ねん}の九^く月^{がつ}八^{やう}日^か九^{ここの}日^かの夜^{よる}とおぼえている。

199. マルメゾンの店^{てん}主^{しゆ}はジェシーとは仲^{なか}良^よしだ。

200. 釣^{つり}竿^{ざお}を肩^{かた}にかけた処^{しよ}士^しあり。

201. 最^{さい}新^{しん}鋭^{えい}機^きに乗り込^{のこ}む。

202. 誰^{だれ}かが後^{うし}ろへ来^きて、変^{へん}な声^{こえ}で叫^{さけ}んだのでぞっとした。

203. おおでらの石^{いし}段^{だん}の前^{まえ}に立^たち止^どまっ^でて、その出^でて来^くる^まのを待^{まち}あわせた。

204. 未^み解^{かい}決^{けつ}の懸^{けん}案^{あん}を持^もって重^{じゅう}役^{やく}と対^{たい}峙^じする。

205. 薄^{うす}月^{づき}の光^{ひかり}が庭^{にわ}を照^てらす。

206. 犯^{はん}人^{にん}がどっちの部^へ屋^やへ入^{はい}ったかわからない。

207. 溪^{けい}谷^{こく}から出^でた氷^{ひょう}河^がが一^い本^{ぽん}に合^{ごう}流^{りゅう}する。

208. ディスカッションを^{すす}進める。

209. 九頭竜^{くずりゅうみょうじん} 明神^{まつ} を祭^{とうろう}るために灯籠^{とうろう} をながす。

210. 今^{こんかい}回^{しりょうづく}の資^{ふか}料^{しりょ}作^{ひつよう}りは深^{せんじつ}い思^{しゅうりよう}慮^しを必要^しとしたが、先^{せん}日^{じつ}やっ^しと終^{しゅうりよう}了^しした。

211. 骨^{こっし}子^しをしっかりと組^くみ立^たてる。

212. 気^{ききゅう}球^{きゅう}にの^{そら}つて空^{たの}を楽^{たの}しむ。

213. 批^{ひひよう}評^{ひよう}ばかりでなく対^{たいあん}案^だも出^ですべき。

214. かれらは幕^{まく}のあいだに木^{きど}戸^との外^{そと}を散^{さんぽ}歩^ぽしているのである。

215. 過^{かこ}去^{かずかず}の数^{きびよう}々^{なほ}の奇^き病^{びよう}が治^{なほ}るようになりつつある。

216. 購^{こうにゅうしゃ}入^{にゅうしゃ}者^{しゃ}はポンプの修^{しゅうり}理^りが必^{ひつよう}要^{よう}なこ^きとに気^きがついた。

217. 彼^{かれ}自^じ身^{しん}は、レ^{ぎようむ}ジ^む業^{ぎようむ}務^むにつ^{おも}き^{おも}たいと思^{おも}っている。

218. 地^{じげ}毛^{きんいろ}は金^{きんいろ}色^{いろ}なん^{なん}です。

219. 鉛^{えんぴつ}筆^おは折^{ふべん}れやすくて不^{ふべん}便^{べん}です。

220. ヒポクラテスは医^{いがく}学^{ちち}の父^よと呼ば^よれます。

221. ところ^{しょうにん}が商^く人^には、国^{ちか}ざ^すかいのすぐ近^{まへ}くへ住^{おな}まって、や^{おな}はり前^{まへ}と同^{おな}じよう^{おな}にやっ^{おな}ていま

す。

222. 今^{いま}ま^{あか}で明^{にかい}るか^{まど}った二^{きゅう}階^{きゅう}の窓^{きゅう}は、急^{きゅう}にま^{きゅう}く^{きゅう}らにな^{きゅう}ってしま^{きゅう}いました。

223. アスファルトに^{かこ}囲^{なか}まれ^{なか}た中^きにケ^{いっぼん}ヤ^{いっぼん}キ^{いっぼん}の木^{いっぼん}が一^{いっぼん}本^{いっぼん}。

224. 名^{なふだ}札^{ふだ}を^{ようい}用^{ようい}意^{ようい}する。

225. マッチョな男性^{だんせい}はモテるそう。

226. 社務所^{しゃむしょ}の人の話^{ひと}に嘘^{はなし}はなかった。

227. 行楽^{こうらく}シーズンの京都^{きょうと}は人^{ひと}でいっぱい。

228. どこからかパチパチと音^{おと}が聞こえる。

229. プロ野球^{やきゅう}はどのチームが優勝^{ゆうしょう}するだろう？

230. しかし、これではまるで私^{わたし}が誘拐^{ゆうかい}しましたと自首^{じしゅ}して出るようなもので、そんな馬鹿^{ばか}な
ことをするやつはあるまい。

231. 切望^{せつぼう}しつつ、主^{ぬし}を待つ。

232. しばらくしてパチパチという音^{おと}も止んだ。

233. 身分^{みぶん}をわきまえず放った狂言^{はな きょうげん}。

234. 天^{てん}を翔ける竜^かの姿^{りゅう}は神秘^{すがた}的だ。

235. 私^{わたし}の精神^{せいしん}と一脈^{いちみやく}相通^{あいふう}じるものがあると思いました。

236. 皆^{みんな}も球場^{きゅうじょう}に行きましよう。

237. コペルニクスはポーランドの天文^{てんもん}学者^{がくしゃ}です。

238. 海沿い^{うみぞ}の旅館^{りょかん}は眺め^{なが}がいい。

239. 集中^{しゅうちゅう}すると周り^{まわ}が見えない。

240. 春木座^{はるきざ}は今日^{こんにち}の本郷座^{ほんごうざ}である。

241. 私^{わたし}の手^てを引っ張^ひるようにして、手^てのひらへくれました。

242. 北海の荒波は、その氷の絶壁の根を噛んで、激しく飛沫を散らしている。

243. 戦意を喪失させるのが勝利への近道。

244. がちょうを飼う。

245. ふあふあと言いながら楽しく手拍子。

246. 従軍記者は大尉相当の待遇を受ける。

247. 茶碗にかかるほど、シャツの袖のふくらかなので、掻き抱く体に茶碗を持った。

248. 色々隠して今日まで犯人と共にいる。

249. 浦子は寝ながら息を引いた。

250. 兄が邪険にされた。

251. 彼は不服そうに呟いた。

252. 模造品ばかりでなく、本物のドイツ将校や兵卒のヘルメットを売っているものもある。

253. 彼女と一緒にいると落ち着きます。

254. 困ってる人に向けて寄付をしました。

255. 落ち込んでいるのか、うつむいてじっとしている。

256. 改良が進むとパンはどんどんおいしくなる。

257. こんなことを言いながら、気の短いおじいさんは下駄を突っかけて、そそくさと出て行ってしまった。

258. 彼女と初デートの今日は夢うつつ。

259. おなじ ^{とうきょう} 東京 ^な の名をよぶにも、^{こんご} 今後はおそらく ^{きゅうとうきょう} 旧 東京 と ^{しんとうきょう} 新 東京 とに ^{くべつ} 区別されるであ
ろう。

260. ^{こし ふ} 腰振りを ^{にふんかんつづ} 二分間続ける。

261. ^{おくびょうもの} 臆病者が ^に 逃げて ^だ 出した。

262. ^{えはがき} 絵葉書と ^{いっしょ} 一緒に ^{ぎんいろ} 銀色のルアーを ^{おく} マッシュに送った。

263. オムライスには ^{いちばん} ケチャップが一番。

264. ストレスは ^{てきど} 適度に ^{はっさん} 発散しましょう。

265. この ^{ひと} 人より ^{はじ} ぞ始まりける。

266. ^{ちゅうがくせい} 中学 生の時、^{とき} 避暑 ^{ひしよりょこうちゅう} 旅行 中 ^{たいちょう} に ^{くず} 体調 を崩した。

267. ^{ぐんい} 軍医は ^{びょういん} 病院 の ^{もん} 門に ^{はい} 入るのである。

268. ^{いちにちじゅうあか} 一日中 ^{びやくや} 明るい ^{いっさいたいよう} 白夜 は、^{しず} 一切 太陽 が ^お 沈まないことで ^お 起こります。

269. もう、あなたにばかりも ^{せい いっぱい} 精一杯、^{だれ} 誰にも ^み 見せられます ^{からだ} 体 ではないんです。

270. みんな ^{そろ} 揃って ^{うみ} 海に ^と 飛び ^こ 込んだ。

271. ^{どうてい} なんだそりゃ、^{むり} 到底 無理な ^{ねが} お願いだ。

272. ^{ちよう} 腸 チフスは ^{こわ} 怖い ^{びようき} 病気。

273. ^{はいきゅう} 排球 は ^{こと} バレーボールの事です。

274. マッチを ^か 買いに ^{はい} 入ったのかな。

275. ^{ぼんさい} 盆栽 は ^{ふぜい} 風情がある。

276. やがて 陪審員 は合議をするために 法廷 を出て行った。

277. 芸術 の求める 永遠 性に疑問を感じる。

278. 聞きつけて、 件 の 姫 、ぶるぶるとかぶりをふった。

279. キェルツェをとおってドビエに、ザリピエからミエイに行く。

280. マリアーンスケー・ラーズニエを おとず 訪 れる。

281. 乳牛 を見ながら、レテュの 入ったピッツァを 食べる。

282. ウドウの 奏者 を 施療 した。

283. インスティテュートで、リデュースの 話 と併せて、ルデュックの 話 も聞いた。

284. ギェナーを 見て イェーイと 叫ぶ。

285. スィーディーを 聞きながら、でゃーこんを 食べる。

286. テヨさんはズィーブラを 見た。

287. レヴォリューション。レギュレーション。エデュケーション。

288. ブレンドデオート。ラーチャン。

289. あっあの。いっいえ。えっええ。おっおい。んーとね。

290. いぶかしげに見上げた 雨雲 から、琥珀色のドラゴンがギュンと 現 れた。

291. 布でギュギュっとヌンチャクを 縛る。

292. 服を脱ぐが、いつも 上下 が逆さまだ。

293. 放課後の 音楽室 で、高音 を頑張って出した。

294. モゴモゴしながら言うギャグは面白くない。

295. 海水魚^{かいすいぎょ}の漁業^{ぎょぎょう}の一環^{いっかん}として、稚魚^{ちぎょ}が育て^{そだ}られている。
296. ムンムンとした熱気^{ねっき}に、あの淡水魚^{たんすいぎょ}もへとへとになっている。
297. ヘスティア^{しよちよう}所長^{じゆうにおんおんがく}は、十二音^{さほう}音楽^しの作法^しを知っている。
298. 主催者^{しゅさいしや}は、このフェスのキャバ^{ちい}が小さいことを、セシル^きから聞いた。
299. 母^{はは}は、サフランライスと、さつまいもの入^{はい}ったシチューと、ポトフをハフハフしながら食^たべた。
300. そして、左京^{さきょう}と千紗^{ちさ}はヘファ^{えき}駅^つに着いた。
301. 根本^{ねもと}と曽原^{そはら}は主君^{しゅくん}を批判^{ひはん}した。
302. ケケっと笑^{わら}いながら、津原^{つはら}はパトカー^のに乗った。
303. キュキュッと鳴^ならした靴^{くつ}でパス^だを出した。
304. ティファニーはパピーにムギュッと抱^だき着^つきながら、チュチュッとキスをし、センキュとい^い言^言った。
305. その義軍^{ぎぐん}は、一ヘクタールほ^{いち}ふく前進^{ぜんしん}をした。
306. ヘへと、きゃつは媚^こびへつらった。
307. ほとんどの被調査者^{ひちようさしや}は、写真^{しゃしん}を車載^{しゃさい}した。
308. 補佐^{ほさ}が、一酸化炭素^{いっさんかたんそちゅうどく}中毒^おになるというハプニングは起きなかった。
309. スチューデントが被災^{ひさい}するファクターを、可能^{かのう}な限^{かぎ}り取^とり払^{はら}う。
310. カフェとは、ブレックファストとして、フォカッチャ^たを食^ばべれる場所^{ばしょ}でもある。

311. 普通、^{ふつう} 初級者^{しょきゅうしゃ} では、^{こうおん} 高音^の を伸ばすことはできない。

312. 彼^{かれ} からしたら、^{さちゅうかん} 左中間^み から見る景色^{けしき} は貴重^{きちょう} だった。

313. シェパードと^{どうきょちゅう} 同居中^に、^{かくづ} フォスター^{ひょう} はその格付け^み 表^を を見た。

314. 去々年^{きょきょねん}、^{きょすう} 虚数^{ちようちよう} とへ^{まな} 長調^{について} 学んだ。

315. 脚立^{きゃたつ} の上^{うえ} でヒュヒューと^{かぜ} 風^ふ が吹くと、^{かれ} 彼は^{せすじ} 背筋^の を伸ばした。

316. 昼^{ひる} にはペスカトーレを、^{よる} 夜^{すし} には寿司^を をパクパク^た 食べた。

317. ケフィアに関するこの本^{かん} は、^{ほん} 本^{しょほん} は、^{さんびやくぶ} 初版^は 三百部^{くらい} くらいだったが、^{つぎ} 次^{はきゆうてき} から^{ぞうか} 波及的^に 増加^{した} した。

318. 皮膚^{ひふ} が^{わたし} 私^の のフェチである。

319. 社販^{しゃはん} で巨富^{きよふ} を築^{きず} くという、^{かれ} 彼の^{もくろみ} 目論見^{とちゅう} は途中^お でへし折^{られた} られた。

320. 左表^{さひょう} のとおりの^{ししゅつ} 支出^{になる} になることが、^{いみ} ある意味^{しゃ} わが社^{しゃふう} の社風^{である} である。

321. この古風^{こふう} な酒^{しゅひょう} 瓢^{こきょう} は故郷^{のもの} のものだ。

322. そのほつれが腐敗^{ふはい} しているというのは、^{こちよう} 誇張^{ひょうげん} した^{おも} 表現^だ だと思う。

323. その映画^{えいが} の^{しゅつえんしゃ} 出演者^{かれ} である^{しゅはん} 彼^{かのうせい} が、主犯^{である} である可能性^は はフィフティーフィフティーだ。

324. チュクンの^{はちよう} 波長^は は、^{きようつう} バツンと^{共通} している。